# 令和4年度 長野市放課後子ども総合プラン事業 自己評価集計結果

長野市こども未来部こども政策課

# 令和4年度 長野市放課後子ども総合プラン事業 自己評価集計結果

長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン(平成30年3月策定。以下「ガイドライン」といいます。)に基づき、令和4年度(令和3年度)における放課後子ども総合プラン事業の実施内容等について、実施場所ごとに自己評価を行いました。

≪長野市放課後子ども総合プラン事業ガイドライン≫

第2章 基本的事項及び管理運営

10 自己評価

事業者は、運営内容の向上のため、実施場所ごとに提供する支援の内容等について 自己評価を行い、その公表に努めるものとします。

### 1 実施状況

対象:87施設 実施:87施設 (実施率100%)

(参考:令和3年度 対象89施設 実施89施設 (実施率100%))

# 2 集計結果 (評価項目ごとの評価指標等については、次頁以降)

評価項目	評価結果							
計劃場口	区分	0	0	Δ	×			
1 人権への配慮、秘密の保持等、基本	R4年度	87施設	0施設	0施設	0施設			
的事項に関すること	R3年度	89施設	0施設	0施設	0施設			
2 運営管理に関すること	R4年度	36施設	43施設	8施設	0施設			
2 連出官項に関すること	R3年度	29施設	56施設	3施設	1施設			
3 育成支援の内容に関すること	R4年度	71施設	16施設	0施設	0施設			
3 月成又抜の内谷に関すること	R3年度	63施設	26施設	0施設	0施設			
4 配慮を要する児童への対応に関す	R4年度	72施設	11施設	4施設	0施設			
ること	R3年度	68施設	16施設	5施設	0施設			
5 多様な体験活動、交流等の機会の	R4年度	33施設	33施設	16施設	5施設			
提供に関すること	R3年度	32施設	36施設	19施設	2施設			
6 安全管理に関すること	R4年度	66施設	17施設	4施設	0施設			
り 女主官垤に関すること	R3年度	59施設	27施設	3施設	0施設			
7 保護者、学校及び地域との連携協	R4年度	61施設	25施設	1施設	0施設			
力に関すること	R3年度	65施設	21施設	3施設	0施設			

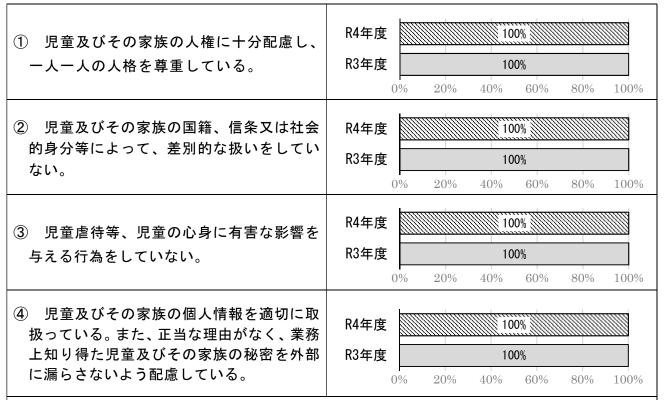
# ≪評価項目1≫人権への配慮、秘密の保持等、基本的事項に関すること

	į	評価結果			
区分*	0	0	Δ	×	R4年度 100%
R4年度	87施設	0施設	0施設	0施設	R3年度 100%
R3年度	89施設	0施設	0施設	0施設	0% 20% 40% 60% 80% 100% ○、△、×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

#### ≪評価指標≫

#### (〇の占める割合)



#### 結果

①~④について、全施設で児童やその家庭の人権の尊重やプライバシーの保護の重要性が 認識され、情報の管理が徹底されている。

- ・児童への対応、言葉がけ、呼称などを職員同士が日常的に振り返り、職員会で反省している。また、保護者と会話する時の言葉遣いを相互評価するように努力している。
- ・国籍の違いにより、保護者が児童氏名を聞きなれない発音で呼んだことから、からかいがあり、相談を受けた。家庭内で呼んでいる名前で職員統一して呼ぶことを保護者と相談し、そう呼ぶことでセンターの児童のからかいを防止し、保護者、児童の安心な施設利用につながった。
- ・児童登録票などの個人情報が書かれた書類は、鍵のかかる書棚に保管している。

# ≪評価項目2≫運営管理に関すること

評価結果					
区分*	0	0	Δ	×	R4年度 41% 49% 10%
R4年度	36施設	43施設	8施設	0施設	R3年度 33% 63% 3% 1%
R3年度	29施設	56施設	3施設	1施設	0% 20% 40% 60% 80% 100%

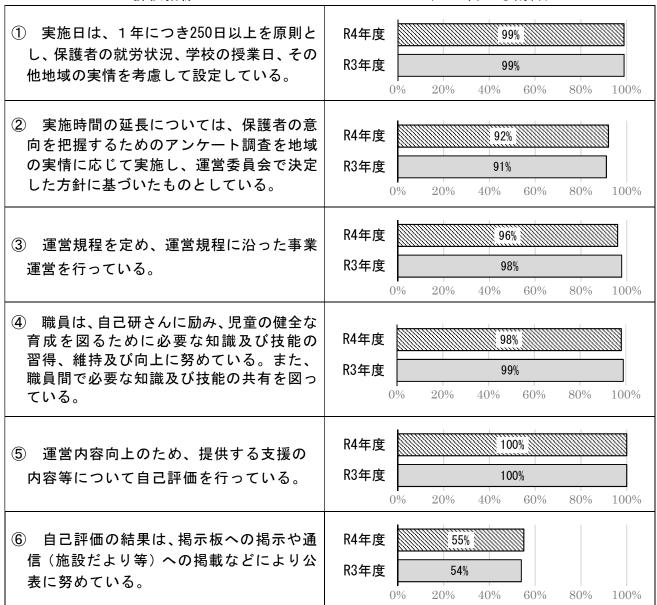
※保育実費の負担を求めている施設(①~⑩)

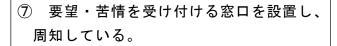
評価指標の「〇」の数が10個 $\Rightarrow$ 「 $\bigcirc$ 」、 $7 \sim 9$  個 $\Rightarrow$ 「 $\bigcirc$ 」、 $4 \sim 6$  個 $\Rightarrow$ 「 $\triangle$ 」、3 個以下 $\Rightarrow$ 「 $\times$ 」 保育実費の負担を求めていない施設 (① $\sim$ 9)

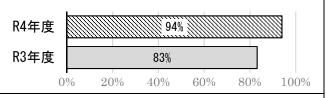
評価指標の「○」の数が9個⇒「◎」、7・8個⇒「○」、4~6個⇒「△」、3個以下⇒「×」

#### ≪評価指標≫

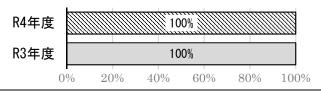
#### (〇の占める割合)



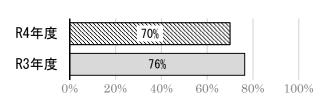




⑧ 苦情を受けた場合は速やかに対応し、申立人に対して丁寧な説明や対応を心掛け、 誠意ある解決を図っている。

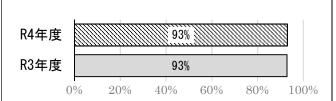


⑨ おやつの提供については、保護者の意向を把握するためのアンケート調査を地域の実情に応じて実施し、運営委員会で決定した方針に基づいたものとしている。



⑩ おやつ代等保育実費の負担を求める場合、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている。

令和4年度対象施設は、43施設



### 結果

- ・①、③、④は、ほぼ全ての施設で適切に設定、実施されている。
- ・②の延長については、9割以上の施設で実施している。
- ⑤の自己評価は全ての施設で実施している。
- ・⑥の自己評価の実施及び結果を公表した施設の割合は、前年度から上昇しているが、5割 程度にとどまっている。
- ・⑦のガイドラインに定める苦情の受付窓口の設置・周知の達成割合は前年度から増加し9割以上の施設が実施しており、⑧の苦情を受けた場合の対応については、全施設で速やかにかつ丁寧な解決を図っている。
- ・ ⑨のおやつについては、提供していない施設も多く、アンケート実施は7割程度の施設に留まる。
- ・⑩のおやつ代等の保育実費について、保護者に対して料金設定の理由を明確にしている施設の割合は昨年度同様 9 割を超えており、ほとんどの施設で実施できている。

- ・保護者アンケートを実施し、保護者のニーズを把握し、保護者の希望に沿って開館時間を 決めている。
- ・研修会には支援員だけでなく、補助員も含め、多くの職員が参加してスキルアップに努めている。
- ・要望、苦情窓口を設置するとともに、保護者との対話を心掛けている。
- ・自己評価は年度末にコドモンで公開予定。
- ・おやつの内容について、コドモンの導入によりアンケートが実施しやすくなるため、保護者の意向を把握し、子どもたちの様子と併せての提供となるようにしたい。

# ≪評価項目3≫育成支援の内容に関すること

	į	評価結果			
区分*	0	0	Δ	×	R4年度 82% 18% 0%
R4年度	71施設	16施設	0施設	0施設	R3年度 71% 29% 0%
R3年度	63施設	26施設	0施設	0施設	0% 20% 40% 60% 80% 100% ×は該当施設なし

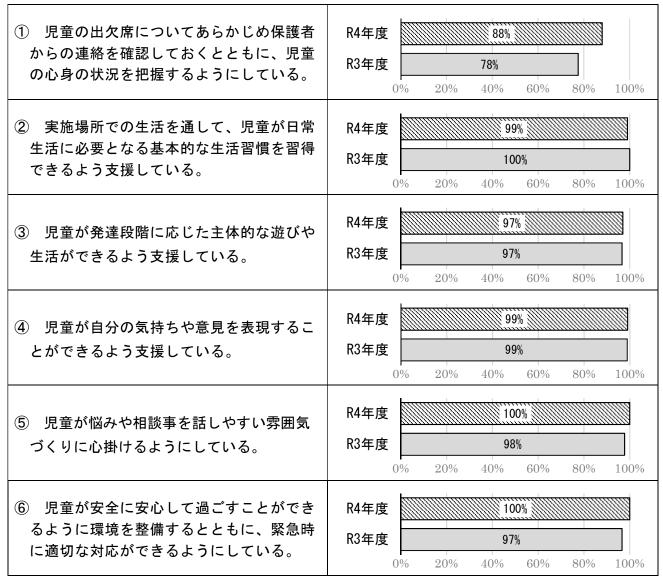
※おやつを提供している施設(①~⑨)

評価指標の「〇」の数が9個⇒「◎」、 $7 \cdot 8$  個⇒「〇」、 $4 \sim 6$  個⇒「 $\Delta$ 」、3 個以下⇒「 $\times$ 」 おやつを提供していない施設 (① $\sim$ 8)

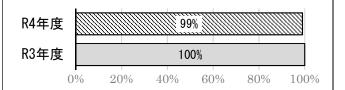
評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×」

#### ≪評価指標≫

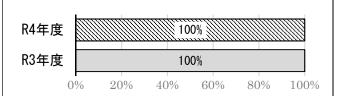
## (〇の占める割合)



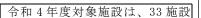
⑦ 実施場所での児童の様子を日常的に保護者に伝え、児童に関する情報を保護者と共有するようにしている。

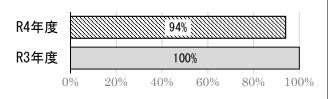


⑧ 児童の健康状況を観察し、病気やけがの場合には、保護者と連絡を取り、迎えに来てもらったり、状況に応じて医療機関につなげたりするなど、児童が安心して回復に向かうことができるよう配慮している。



⑨ おやつを提供する場合、提供する時間や 内容、量等は、児童の来所時間や帰宅時 間、遊びや生活の流れ、児童の状態を考慮 している。





#### 結果

- ・①の出欠の事前把握については、コドモンの導入もあり、前年度より10ポイント改善した。
- ・②~⑤の児童への支援や相談環境づくりについては、前年度と同等かそれ以上で、ほとんどの施設において適切に実施されている。
- ・⑥の児童の安全・安心な環境整備や緊急対応、⑦、⑧の保護者との情報共有や病気やけがへの対応については、ほとんどの施設で適切に実施されている。
- ・ ⑨のおやつを提供する場合の児童の来所時間等の考慮については、昨年度よりもやや減少したものの、 9割以上の施設で適切に実施されている。

- ・令和5年1月から本格導入された「利用児童の入退室管理システム(コドモン)」により、 児童の出入りを保護者が遠隔で確認でき、併せてプラザからのお便りや行事予定等の配信 ができることから、安心感や利便性が高められ、保護者からも大いに歓迎されている。
- ・コドモンの導入により出欠確認がしやすくなった。
- ・保護者とのやり取りも、コドモンを利用して素早い対応がとれるようになった。
- ・児童一人ひとりの心身の状況を観察し、職員同士で情報交換している。児童の得意なこと、 頑張ったことを褒め、共感的に接することで児童が困ったことや悩みを相談しやすい雰囲 気づくりに心掛けている。
- ・子ども同士のトラブルがあった時は、心情をくみ取り、落ち着かせてから、自分はどうだったかを振り返り、「ごめんね」が互いに言えるようにしている。
- ・保護者が部屋に入り、直接児童を連れ帰るようにして、普段のセンターでの様子や環境を 見てもらっている。
- ・支援を必要とする児童は学校と連絡を取り合い、センターでの様子、学校での様子を情報 共有している。
- ・特に心配のある子の、連絡先・医者(担当医師)などの一覧表を作成し、救急車隊員にすぐに渡せるようにしている。

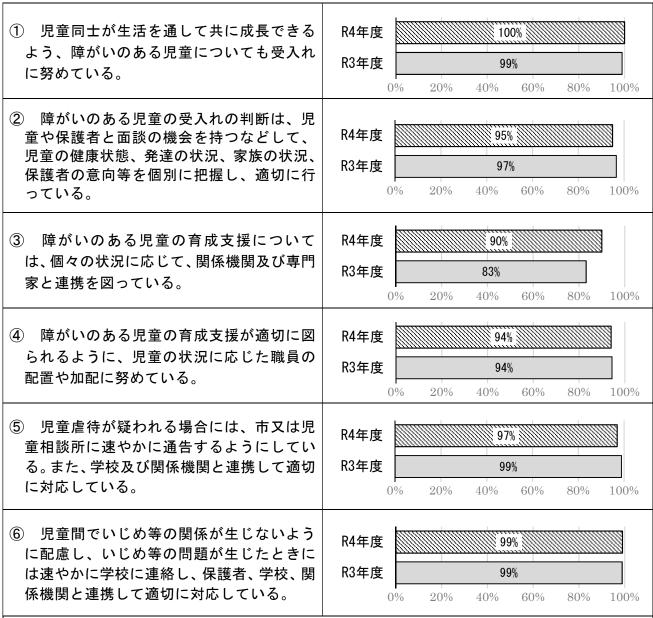
# ≪評価項目4≫配慮を要する児童への対応に関すること

	評価結果											
区分*	0	0	Δ	×	R4年度			83%		13	iiii	
R4年度	72施設	11施設	4施設	0施設	R3年度			76%		18%	6%	
R3年度	68施設	16施設	5施設	0施設	0	1%	20%	40%	60% ×	80% は該当旅	100% 西設なし	

※評価指標の「○」の数が6個⇒「◎」、5個⇒「○」、3・4個⇒「△」、2個以下⇒「×」

## ≪評価指標≫

#### (〇の占める割合)



#### 結果

- ①の障がいのある児童の利用希望があった場合は、全ての施設で対応に努めている。
- ・②の受入判断、④の必要な職員配置、加配については、昨年同様、9割強の施設が対応してい

る。

- ・③の障がいのある児童の育成支援については、前年度からやや改善し、9割となった。
- ・⑤の児童虐待、⑥の児童間のいじめ等への対応については、昨年度同様、ほぼ全ての施設に おいて適切な対応を行っている。

- ・障がいのある児童を受け入れる際、保護者と面談し、要望に対して可能な支援を相談して、 学校とは違うセンターでの集団生活を楽しく学び、体験していく場であると理解してもら い、安心してもらっている。そのおかげで色々な相談を話し合えている。
- ・障がいのある児童については、学校・保護者・市・社協含め支援会議を開催し、適切な職員配置を行っている。
- ・特性のある子や特に配慮する必要がある子が多いが、学校との連携や保護者との懇談を通じて、一人ひとり個別の対応を心掛けている。
- ・発達障がいや、障がいが疑われる児童に対して、プラザでの実態を学校に伝え、スクール カウンセラーとの話し合いを行い、対象方法について共有している。
- ・加配児童に対しては、その日の様子を加配児担当の支援員から聞いて、意欲的に取り組んでいたこと、友達と仲良く遊べたことを中心に保護者に話をし、不安定な日はその状況を詳しく説明するなど、保護者との共有に努めている。
- ・発達障がいの傾向がある児童の見守りや、育成支援を積極的に行い、加配等に努めている。
- ・外国から来て間もない日本語が話せない児童に対し、通訳の派遣を依頼し、スムーズにセンターの生活ができるよう対応した。
- ・巡回指導員の先生に、子どもたちの様子を観察してもらい、的確なアドバイスを頂いている。
- ・不登校傾向にある児童に対して、学校と連携しながら、家庭訪問等してコミュニケーションをとっている。児童や保護者の様子を職員にも報告して、理解を共有して対応している。
- ・いじめ等については、子どもたちに対するアンケート等により把握、事情を聴いている。
- ・いじめが疑われる児童について、学校の担任へ連絡をし、学校での状況を確認したり、当事者の保護者にも状況の説明をし、いじめがなくなるよう努めた。
- ・いじめ等の問題が疑われる場合には、学校や家庭と連絡を取り合い、情報交換をして、児 童同士が気持ちよく過ごせる環境を整えることに留意している。
- ・教頭と施設長が緊密に連携して、教室でのトラブルや人間関係がそのままプラザに持ち込まれても気づかないということが無いように気を付けている。

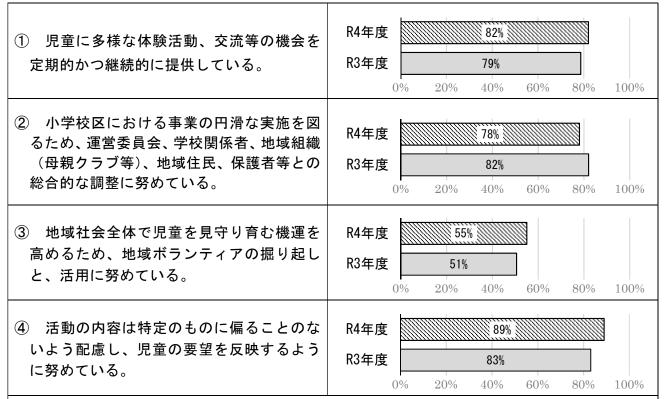
# ≪評価項目5≫多様な体験活動、交流等の機会の提供に関すること

	評価結果											
区分*	0	0	Δ	×	R4年度		38%		38%	18%	6%	
R4年度	33施設	33施設	16施設	5施設	R3年度		36%		41%	21	- 1	
R3年度	32施設	36施設	19施設	2施設	0	)%	20%	40%	60%	80%	100%	

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

## ≪評価指標≫

#### (〇の占める割合)



#### 結果

- ・①の体験活動等の提供を実施した施設は、新型コロナの感染防止に努めながら可能な範囲で取組みが行われ、前年より上昇した。
- ・②、③は、前年度と似た傾向にあり、引続き運営委員会等の関係機関との調整や地域ボランティアの掘り起こし・活用が課題となっている。
- ・④については、新型コロナの影響で活動が制限されたものの、前年度より割合がやや増加 した。

- ・コロナの関係で地域ボランティアの人に頼むことを躊躇せざるを得ないことがあった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、アドバイザーの受け入れが困難などの問題があり、以前のような機会が持てなかった。

- ・コロナにより、計画通りに開催されない行事も多かったが、できる範囲で体験・交流の機 会をもつことができた。
- ・新型コロナウイルス感染症による自粛が緩和されてきているので、様子をみながら、さら に体験活動を考えていきたい。
- ・地域社会全体で連携し、児童の要望も取り入れて、今年度はボッチャ競技を楽しんだ。
- ・参加型のアドバイザー利用により児童が高齢者とコミュニケーションでき、消極的な児童 を支援できる良い機会・交流の場となっている。
- ・アドバイザー活動内容は、活動時の見守りのしやすさなど運営面から選択することが多い。 子どもアンケート等により、児童の希望を活動に反映できるよう今後の課題としたい。
- ・アドバイザー制度の利用ほか、地域の活動協力を利用し、児童の体験の幅を広げることに 努めている。
- ・小学校区の運営委員会を通して、地域内の各種団体との円滑な連携に努めている。
- ・地域で活躍されている方をアドバイザーとして活用している。教室ではできないことを体験し、作品として持ち帰らせることで達成感を味わわせることができている。
- ・地区公民館の協力により、長期休業中に地域行事に関わる、ものづくり体験などの子ども 講座を開催している。

# ≪評価項目6≫安全管理に関すること

	評価結果										
区分*	0	0	Δ	×	R4年度			76%		20%	4%
R4年度	66施設	17施設	4施設	0施設	R3年度			66%		31%	3%
R3年度	59施設	27施設	3施設	0施設	(	)%	20%	40%	60% ×	80% は該当加	100% 色設なし

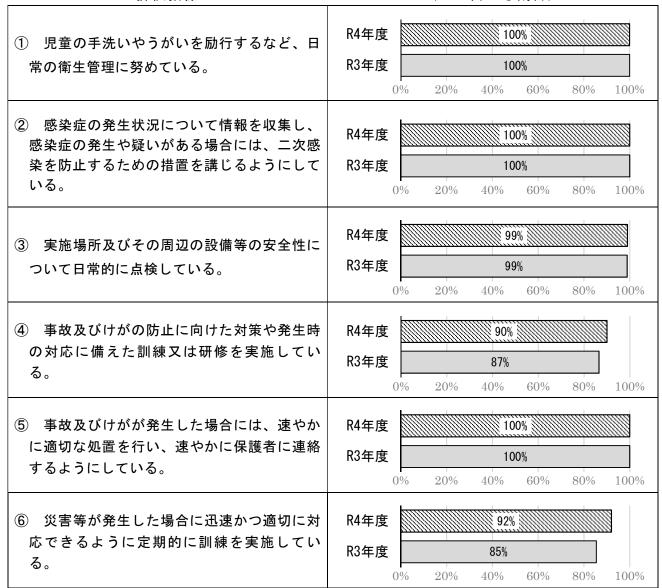
※おやつを提供している施設(①~⑨)

評価指標の「〇」の数が9個⇒「◎」、 $7 \cdot 8$  個⇒「〇」、 $4 \sim 6$  個⇒「 $\Delta$ 」、3 個以下⇒「 $\times$ 」 おやつを提供していない施設 (① $\sim$ 8)

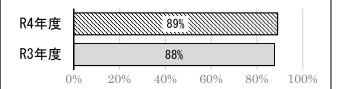
評価指標の「○」の数が8個⇒「◎」、6・7個⇒「○」、4・5個⇒「△」、3個以下⇒「×」

#### ≪評価指標≫

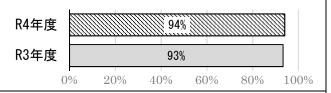
#### (〇の占める割合)



⑦ 市及び学校等関係者と連携を図り、地域に おける児童の安全確保及び安全点検に関する 情報の共有に努めている。

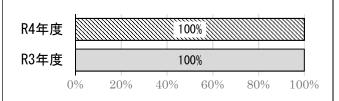


⑧ 災害等が発生した際に保護者及び市、学校 等に速やかに連絡できるよう連絡体制を整備 している。



⑨ おやつを提供する場合には、食物アレルギー及び窒息事故の防止に留意するとともに、食中毒防止のための衛生管理を徹底している。





#### 結果

- ・①~③の日常的な衛生管理や感染症対策、安全管理等については、ほぼ全ての施設で徹底されている。
- ・4、6の訓練・研修の実施割合は年々上昇しており、約9割の施設で実施している。
- ・⑤の事故やけがへの対応は全ての施設で徹底されている。
- ・⑦、⑧の情報共有、連絡体制整備については、昨年度からやや改善した。
- ・ ⑨おやつの提供の際の衛生管理等については全ての施設で徹底されている。

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、手のアルコール消毒、手洗い、マスク着用を徹底するとともに、密をできるだけ避け、換気を確実に行った。
- ・開館時と閉館時に布またはペーパータオルで、机や人の手が触れるところを拭き掃除し、 使用した布などは1回限りで廃棄している。
- ・事故が起きやすい場所・状況を職員全員で共有し、職員配置に配慮している。 事故が起こってしまった際は、直ちに安全な場所に移動して保護者へ連絡し、経過を観察。 再発防止策等を保護者に伝え、毎日の打ち合わせで職員に再確認している。
- ・避難訓練2回、洪水を想定した訓練1回を実施。また、安全点検日を設けて点検を繰り返している。
- ・応急手当研修やAED取扱い訓練、不審者侵入時の対応訓練を計画に基づき実施している。
- ・連絡体制について、今まで学校を通じて保護者へ連絡していたが、これからはコドモンの 活用を検討していきたい。
- おやつのアレルギー対策として、事前に保護者と相談し、職員全員が把握できるように、アレルギー内容の表を作成、掲示している。

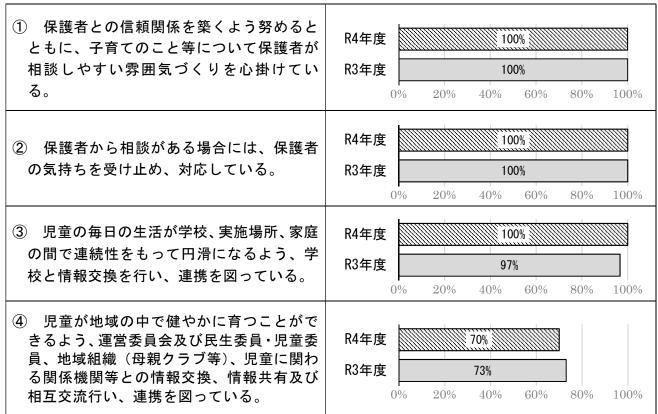
## ≪評価項目フ≫保護者、学校及び地域との連携協力に関すること

	~ - · · · ·		104104 0		
	İ	評価結果			
区分*	0	0	Δ	×	R4年度 70% 29% 1%
R4年度	61施設	25施設	1施設	0施設	R3年度 73% 24% 3%
R3年度	65施設	21施設	3施設	0施設	0% 20% 40% 60% 80% 100% ×は該当施設なし

※評価指標の「○」の数が4個⇒「◎」、3個⇒「○」、2個⇒「△」、1個以下⇒「×」

#### ≪評価指標≫

#### (〇の占める割合)



#### 結果

- ・①、②の保護者との信頼関係構築、相談対応については、全ての施設で適切な対応をしている。
- ・③について、全ての施設で、学校との情報交換・連携を進めている。
- ・④について、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、母親クラブ等の活動、地区の運営 委員会、地域の児童福祉関係者等との連携が低調となっている。

#### 施設コメント(主なもの、参考となるもの)

・保護者のお迎えの際、必ず明るい挨拶とともに、なるべくお子さんの頑張った姿や良かったことをお伝えするように心がけ、保護者との良好な関係作りを心掛けてきた。1・2年生の下校時にはなるべく館長が出向き、直接担任の先生方と会話して個々のお子さんの状況をお聞きするように努力している。

- ・お迎え時に、体調報告以外にも、意欲的に取り組んでいる遊びや、楽しんでいたこと等を 積極的に報告するとともに、家での様子等を聞くように心掛けている。
- ・保護者へは、成長を感じられることや子ども同士のトラブル問題等、必要と思われること について必ず伝えている。
- ・新型コロナ以降、地元の母親クラブとの交流・連携は停滞を余儀なくされている。
- ・コロナ禍で各種会議などができず、関係機関との十分な連携、情報交換ができなかった。
- ・新型コロナウイルス感染の影響で、運営委員さんの意向もあり、運営委員会を開く機会が なかった。今後の自粛緩和により、委員会を開催し、情報交換を進めたい。
- ・学校とは、年間行事予定の情報交換、学校評議員会での情報交換、学級担任との懇談など で連携を図っている。
- ・今年度は、学校の教頭先生が頻繁に顔を出してくれ、連携はとても良くできたと思う。また、校長先生・教頭先生・職員全員と懇談を持つことができ、とても良かった。
- ・毎月発行している「児童センターたより」を小学校、子どもプラザ、地域組織に配布している。